

2021年度 第二部商経学科ゼミ募集要項

岡田ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>日本全体の人口減少と大都市圏への人口移動が加速し、特に地方圏は地域存続の危機に直面しております。これからは、各自が地域の問題を見つけ、改善策を探り、住みたいまちづくりを意識しながら、仕事をするのが重要であると考えます。このゼミでは「地域活性化」や「地域づくり」を基本テーマとします。具体的には、地域で起こっている現象を、都市、農村、商業、農業、工業、観光、交通、文化、社会、景観、行政、環境などの様々な視点から、または複合的にアプローチすることにより、その実態を捉えて改善策を考えていきます。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>演習Ⅰ：基本テーマに沿った関心のある文献を各自で見つけて発表し、皆で議論します。 演習Ⅱ：各自のオリジナルな発想で卒業研究のテーマを決めて、地域調査を進めます。 卒業研究：地域調査結果をもとに、余裕を持って卒業論文を作成します。 地域活動：希望する場合には相談を受けます。過去にはファーマーズマーケットやマルシェの運営、地元商店街とのフリーペーパー作成、鹿児島市の若者まちづくり会議などに携わってきました。 (ゼミ時間外の地域活動への参加は自由です。成績に関係しません。)</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>どのような職種を希望する場合でも、可能な範囲で相談にのります。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>基本テーマに沿っていれば何でも構いません。</p>
<p>学生への要望</p>	<p>ルールを守ること。 協調性をもつこと。 ゼミの時間は前向きに思考すること。 基本テーマに特化したゼミを行うので、このことに関心のある学生を望みます。</p>
<p>その他</p>	<p>興味や質問があれば、研究室(3号館2階)を訪ねるか、メール(okada@k-kentan.ac.jp)をしてください。 岡田ゼミを希望する場合には、なるべく事前に相談に来てください。</p>

倉重ゼミ

基本テーマ	<p>このゼミでの基本テーマは、「コンピュータを用いた意思決定」です。ここでのコンピュータを用いるとは、プログラミングを行ったり、エクセルをちょっと高度に利用してみたり、特殊なソフトを使うことです。さらにサブテーマとして、「観光」をあげています。</p>
ゼミ運営方法	<ul style="list-style-type: none"> ・演習 I と II では、エクセルを利用したプログラミングやデータ解析、シミュレーションなどを学んでいきます。ある程度基礎力が養われたら、「エクセルを使った鹿児島すごろく」の作成や「観光地の評価」などの課題に取り組んでもらう予定です。コンピュータを用いる課題以外にも人前で話すことや思考力を養う課題なども考えています。また、最初のうちは教員主体で行いますが、慣れてくれば学生主体での運営を考えています。 ・卒業研究では、基本的に自分が興味を持てるテーマで卒論を書いてもらいます。 ・課外活動は、学生さんからの要望があれば実施します。
就職指導の方針	<p>私に”できる範囲内”でのお手伝いはさせていただきます。特に間接的な就活支援になりますが、SPIの非言語処理問題やPC検定への質問・相談は歓迎します。また、面接練習用にビデオカメラなども準備しています。これらは希望する学生さんのみを対象にするもので、こちらから無理強いすることはありません。</p>
卒論の要件	<p>テーマなどは自由で、複数名で取り組むことも可能とします。分量に関しては、その内容によります。</p>
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも現段階でプログラミングなどコンピュータを扱うことに興味があること(経験はまったく問いません)。 ・チームでの活動を基本とするので、最低限度の協調性は必要かと思えます。 ・後期開講予定の統計学は受講してください。
その他	<p>このゼミは、以下のような人が向いている気がします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来、情報関連分野に就職を考えている人はもちろんですが、ワンランク上のエクセル使いを目指す人 ・数字を扱うパズルが好きな人(得意である必要はありません) ・フェルミ推定が楽しそうと思える人 <p>(フェルミ推定については、ネットで調べてみてください。過去の課題例: 県短で1年間に消費されたトイレットペーパーのロール数, 県短内で1年間に発生した消しカスの重量, 県短内での1年間のタイピング数, 県短の門を1年間に通過した人数などの推定)</p> <p>現在, 国内留学中のため大学にはいませんが, 何か質問があれば気軽にメール(kuraken@以下略)で問い合わせてください。</p>

宗田ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>【基本テーマ】 会計学の視点による鹿児島県内中小企業の調査研究 【概要】鹿児島県内の中小企業の調査研究を行います。コロナ禍の影響次第ですが、実際に中小企業を訪問して、ビジネスモデルについて学び、経営を行なっていく上で、会計の果たす役割について検討して行きます。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>演習Ⅰ，Ⅱ：中小企業に関連する基本書を通読したり，調査手法について学びます。 （同時に中小企業関連資格の勉強も行います。） 卒業研究：演習ⅠおよびⅡにおける学修をもとに卒業論文の作成を目指します。 ゼミ運営の基本方針は以下の通りです。 「勉強の方法を学ぶ」，「知識・技術の習得」，「交流と協調」，「よく遊び，よく学ぶ」</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>どのような進路であっても，可能な限り皆さんのリクエストに応えます。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>各自で設定した卒論テーマに従って，卒業論文を作成していただきます。 字数制限は特にありません。詳細なテーマ等は過去の学生論集を参照してください。</p>
<p>学生への要望</p>	<p>現在の知識や技術ではなく，次のような学生の参加を望んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をしたり，時間を守ったりするなど，ルールやマナーを守ることができる学生。 ・勉強に限らず，自らの目標もしくは目的に向けて学生生活を送っている学生。 ・サークルや自治会活動，大学イベントなどに積極的にかかわれる学生。 ・ゼミに入った場合，会計関連科目（簿記論，原価計算，会计学総論，財務会計論，会計情報論，管理会計論など）を履修していただけると幸いです（強制はしませんが希望します。）
<p>その他</p>	<p>【担当者自己PR】 担当者のプロフィール等に関しては，宗田健一会計研究室のホームページ（http://sota.labo.ac）で確認してください。 連絡先アドレス：sota * k-kentan.ac.jp （*は@に換えること） 可能であれば，ゼミ配属後のミスマッチを防ぐために，事前に研究室を訪問したり，私と話したりすることをお勧めします。</p>

竹中ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>テーマは、「経営学を学び、これらからの働き方を考える」です。 経営学のゼミですので、企業やその活動内容についての理解を深めていきます。同時に、私たちにとって大事な問題である、企業との「働き方」についても考えていきます。「良い企業とはどのような企業なのか」「望ましい働き方とはどのようなものか」などのテーマについて、テキストでの内容を手がかりにして、ゼミで議論を行います。</p> <p>テキストは「みんなの経営学」(佐々木圭吾著)を候補として考えています。ゼミのメンバーが決まれば、テーマやテキスト、進め方について改めて考える機会を設けるつもりです。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>大きな流れとしては、以下のようになります。</p> <p style="text-align: center;">演習1: テキストを中心として、経営学や企業を考える知識を得る ↓ 演習2: ①各自の卒論のテーマを設定し、執筆の準備をはじめる ②引き続きテキストの内容を取り上げる ↓ 卒業研究: 卒業論文を仕上げる</p> <p>ゼミは、基本的には学生が中心になって活動するものです。ゼミ生同士で考えていく時間を多くしていくつもりです。</p> <p>ゼミでは、各自のテーマについて問題意識を持って考えていくことが大切です。自分の意見を述べると共に、他の学生からの質問や感想にも耳を傾けることで、様々な問題の理解が深まっていくようなゼミ運営ができることを望んでいます。</p> <p>なお、ゼミ合宿等の大学外での活動の予定はありません。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>就職は皆さんにとっての大きなテーマです。できるだけサポートをしていきたいと考えています。これまでは、履歴書作成や志望動機、自己PRなどどのように書けばよいかについて、アドバイスしてきました。また、具体的な求人情報は学生課にありますので、そこの連携も行っていきます。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>卒論の字数については、目安としてA4用紙10枚程度(12000字～15000字程度)が必要です。テーマについては、必ずしもゼミで取り上げたテーマでなくても構いません。自分で関心があるテーマを見つけ、それについてじっくりまとめることができれば大丈夫です。2年生の演習1の終盤からそれぞれと意見交換しながらテーマや内容について考えていく予定です。</p>
<p>学生への要望</p>	<p>ゼミは少人数で運営されるので、一人一人の発言や学生自身の考え方・問題意識が大切です。そのためには、それぞれの人が何を考えているのか、言葉や文字にして他の人に伝えていくことが必要になります。また、伝える方法にまだ慣れていなければ、ゼミなどの機会を活用して練習していくことで、経験値が上がっていきます。</p> <p>このようなことを理解してくれる学生を望みます。</p>
<p>その他</p>	<p>ゼミについて何か質問がある場合は、takenaka@k-kentan.ac.jpまでメールで連絡するか、授業後や研究室などへ直接質問に来てくれれば対応します。</p>

福田ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>国際社会に起きている様々な事象を理解できるようになることを目標にしたいと思います。また、そうした国際的な出来事が、鹿児島に住む私達の生活にどのような影響を及ぼすのかについても検討します。グローバルな視点をもって、ローカルで活動できるようになることを目指します。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>演習1では、新聞の社説の読み比べをして、社会の様々な問題に対してどのような意見があるのかを見ていきたいと思います。そしてその問題について議論したり、レポートを作成してもらいます。</p> <p>演習2では、国際関係論に関する基本的な文献の輪読をして、順番に報告してもらいます。同時に、順番を決めて毎週新聞記事についての報告してもらいます。演習2の途中から各自の興味のあるテーマについてまとめてもらいます。</p> <p>卒業研究では、各自の卒論のテーマについて報告してもらう予定です。</p> <p>ゼミの運営に関しては、参加者と相談しながら決めて行きたいと思います。</p> <p>課外活動(参加は任意で成績には関係ありません) 希望があれば、県内外を訪問する課外活動を行いたいと思います。これまでに沖永良部や奄美大島、加計呂麻島などの離島を訪問したり、宮崎や鹿児島のアボカド栽培などについて見学したりしました。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>小手先の面接技術などを習得するよりも、学生時代にしかできない体験、他の人と違った経験をすることを勧めます。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>「基本テーマ」に関するテーマについての卒業論文を執筆してもらいます。分量は、1万2千～1万5千字程度。</p>
<p>学生への要望</p>	<p>自分で考えて、自分で行動していこうというタイプの積極的な方を歓迎します。遅刻や欠席などをしないなど、あたりまえのことをあたりまえに行える学生を希望します。</p>
<p>その他</p>	<p>何か質問があれば、遠慮なくメールでfukuda@k-kentan.ac.jpまで問い合わせてください。直接研究室に来てもらっても構いませんが、事前にメールで連絡をもらえると確実です。</p>

山口ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>〈社会問題を経済の側面から分析し、解決策を探る。〉</p> <p>少子化、高齢化、財政問題、地方衰退、格差と貧困、働きすぎ、新技術の登場、気候変動、その他、取り上げるテーマはゼミ生個々人が自由に選びます(ただし経済的視点から分析できるものが望ましい)。 このゼミでは、問題意識の見つけ方、資料の集め方、論理的な考え方、解決策としての自分自身の主張の作り方などを、本や研究実践を通じて指導していきます。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>演習1では、まず文献やビデオ鑑賞を通じて、「社会」とは何かについて考える機会を作ります。そして、研究の方法論(研究とは何か、どのように進めるか)といった基礎について学んでいきます(春休み期間も含む)。 演習2では、各自のテーマとしたい問題に基づく研究報告と、全体にかかわる経済学等の文献の輪読を並行して進めます。 卒業研究では、各自がテーマを決めて研究を進め、研究報告を中心としたゼミ運営を行ないます。</p> <p>1年生の春休みや2年生の夏休みといった長期休暇も有効利用してしっかり学ぶことができる環境をつくります。 長期休暇中は各自の研究・学習に必要な本を自習してもらいます。また、ゼミ生の希望があれば国内外への調査旅行や合宿なども実施します(ただし新型コロナウイルスなどの状況次第)。 その他、希望があれば企業見学なども随時企画します。ゼミ懇親会などの親睦企画も随時実施します(同上)。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>就職・進学いずれにしても、基本は自分自身で進めてもらいます。 その中でわからないことがあれば相談に乗ります。可能なかぎりが必要な支援も行いますので、相談は遠慮せずに行ってください。 支援の中身としてこれまでは志望動機の添削や自己分析の手伝いなどをしてきました。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>テーマは指導の中で相談して決めていきます。字数は12000字以上とします。</p>
<p>学生への要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・無断欠席をしないようにしてください。 ・しっかり勉強に取り組むことを基本としていますが、とりわけ就活の取り組みを含め、個々人の状況には配慮します。負担が大きいなどの悩みがあれば遠慮なく相談してください。 ・ゼミの課外活動(企画、調査旅行、合宿など)については、実施される場合基本的に参加を推奨しますが、参加不参加の判断は任意であり成績には影響しません。また、金銭面その他不安がある場合は相談してください。 ・日常生活から、いろいろな物事に対する好奇心を持つことで、知の可能性はぐっと広がります。 ・個性を大切に。 ・自分の心身の健康を大切に。
<p>その他</p>	<p>メールでの連絡は y-yamaguchi@k-kentan.ac.jp まで。 研究室は3号館2階です。 相談の予約については授業前後などに気軽に声をかけてもらって構いません。</p>

山本ゼミ

基本テーマ	<p>今年のゼミの研究テーマは、「観光行政」及び「地方分権改革」です。前半は「観光行政」について取り組みます。「観光客にとって、魅力的な都市とはどのような都市か」という視点から、「都市ブランドの確立」、「ホスピタリティーの育成」等の観光振興のための施策について、実際の成功例を参考にして検討していきます。後半は、地方分権時代における「地方行政」のあり方について検証します。最初に地方自治体の役割に関する基本的事項を学んだ上で、フィールド・ワークを通じて「地方分権」はどうあるべきか、鹿児島県の未来像に関して考察していくことにします。</p>
ゼミ運営方法	<p>演習Ⅰ：ゼミの基本テーマに関連する文献を使用し、観光行政、地域活性化ための基礎知識を身につけます。担当者に順番に報告してもらい、全員で議論をし、理解を深めます。</p> <p>演習Ⅱ：各ゼミ生が卒業論文のテーマを決めて、調査を開始します。</p> <p>卒業研究：卒業論文を作成します。</p> <p>例年フィールドワークを実施しています。実際に鹿児島県の観光地に行き、観光客にアンケートをお願いしたり、インタビューをすることで、より魅力的な観光地になるためのヒントを探ることができるからです。毎年、山本ゼミでは南大隅町の「雄川の滝」に行っています。20分ほど森の中を歩いて、素晴らしい感動を体験できますよ。</p> <p>コロナ禍で、実施が困難な状況ですが、ゼミ旅行も毎年行ってきました。コロナが収束したらが前提になりますが、海外（費用は20万円程度）あるいは国内（費用は6万円程度）に行き、世界や日本の歴史文化を学ぶことができたらと思っています。これらの課外活動への参加は任意です。また世界の料理を食べる食事会もできたらいいですね。課外活動があれば参加したいと思っている意欲のある学生を歓迎します。ただし課外活動は、ゼミの成績には一切影響しません。</p> <p>今年のゼミ運営の合言葉は「見る、聞く、出会う」、「卒論作成のために徹底的に歩いて汗をかく」です！</p>
就職指導の方針	<p>山本ゼミのOGに就活体験記を話してもらうことを予定しています。</p>
卒論の要件	<p>卒論のテーマは自由ですが、1万5千字以上を条件とします。</p>
学生への要望	<p>忙しいゼミが好きで、行事やゼミ旅行に積極的に参加できる、参加したいという学生が山本ゼミに向いています。</p>
その他	<p>山本ゼミを希望する学生は、できるだけ研究室を訪問してください。研究室訪問の際には、事前にメール（yamamoto@k-kentan.ac.jp）を送るようにしてください。</p>